

飯伊地区 産業経済動向

No.534 2023/9
(5.10.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙	写真：公開された三遠南信道 青崩峠トンネル（仮称）・小嵐トンネル工区（長野・静岡県境付近）	・ P 1
	写真提供：中部地方整備局飯田国道事務所	
製造業	景況DI 前月から改善。機械製造では前月比売上増との声が増加	・ P 2
建設業	9月の公共工事は前年比増加。8月の住宅着工は前年比でやや減少	・ P 4
商業・サービス業	景況感は悪化。物価高により売上増加も販売数量は減少との声	・ P 5
特集	新幹線駅のあるまちを訪ねて 新幹線駅と地域づくり・まちづくり	・ P 6
	～上田市・上田駅地域の現状と課題から考える～	
SDGs サポートサービスのご案内		・ P 16
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標		・ P 17
「第54回 しんきん経済講演会」のご案内		・ P 18

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から改善。機械製造では前月比売上増との声が増加

当月の製造業の業況判断指数（DI）プラス2.3で、前月から54.3ポイント上昇。翌月予測は0.0で、前月から40.9ポイント上昇。機械製造では、前月までと比較して売上が前月比増加との事業者が多くなった。ただ、先行きは不透明との声が非常に多く、本格的な回復はまだ見通せない状況。自動車関連は回復してきたとの声がある一方、半導体関連は回復の時期が見通せないと声が聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれ、販売では増加の声がやや多く、受注は横ばいとの声が多い。
- 景況感… 当月の景況感は業者により見方が分かれたが、横ばいとの声が多い。先行きについても同様だが、当月に比べて悪化を見込む声はやや多い。

[企業からのコメント]

- ・自動車生産は高水準で、設備カスタム需要や消耗品需要は高い。
- ・半導体装置、工作機械業界などの生産設備市場は停滞しているが、その中でもDX、自動化に関連する製品は底堅い需要がある。同業他社では、電池関連設備を扱う業者は忙しい。
- ・業界内の技術力の高いメーカーでも受注状況は芳しくないようだ。対前年度比で7～8割くらいのところが多いイメージ。
- ・DX投資、工場環境整備の投資計画は続く。DX推進でコミュニケーション環境を整えることは人の働きやすさにもつながる。
- ・受注先の偏りがある場合はその会社の変動に大きく左右されているが、受注先の業界が多様である場合はその変動が少ない。

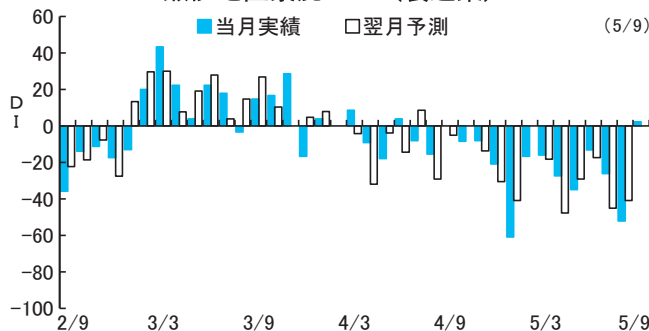
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 販売の前月比は業者により増減分かれる。受注は前月比で減少～横ばい。
- 景況感… 当月の景況感はやや悪化～横ばい。先行きについては業者により見方が分かれた。

[企業からのコメント]

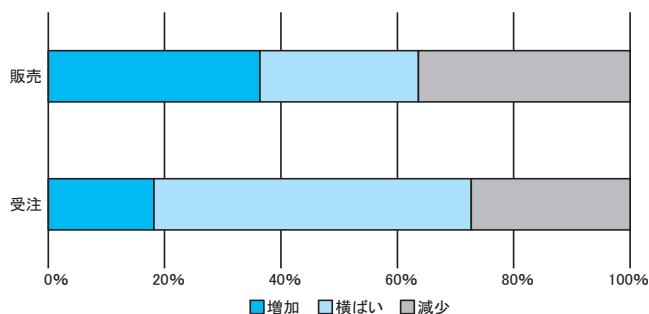
- ・新聞などには半導体業界の回復の兆しを見かけるが、当社においては実感が無い。メイン取引先に関しては、ようやく失注や作りだめの在庫がはけ、通常期に戻る可能性が示唆されたが、先行きは不明。その他の半導体の取引先も在庫調整の局面で、回復時期は不明のため、全体的に先行きは不透明。年末または年始には良い方向に転じることを期待。
- ・客先の話可信であれば、少し早めに回復するかもしれないが判断は禁物だと思う。今後必ず回復はするが、どのタイミングで山が来るかが経営者にとって最大の関心事である。
- ・「原材料価格は総じて高止まり状態を維持している模様。中国の景気回復が遅れているため、一部材料では価格の下落もみられる」「ここ数月は変動はない状態。高止まりと感じている」
- ・自動車関連の新技术対応をしている企業は忙しくなるのが早いと聞いている。EV、自動運転など、新しい技術も要求され、マンパワーも含めて不足しているところが浮き彫りになり、対応に追われているようだ。

飯伊地区景況DI（製造業）

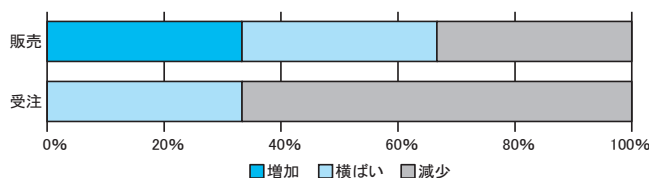


【DI（ディフュージョン・インデックス）とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

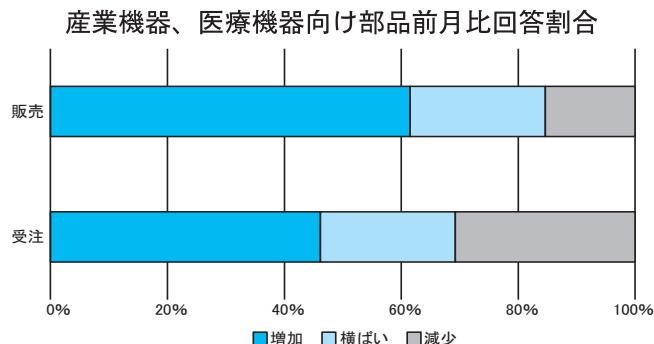


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、増加との声が多くなった。販売の先行きについては減少を見込むとの声はやや多い。
- ☑景況感…… 景況感は横ばいとの声が多いが、一部にやや好転したとの声も。次月以降も横ばいとの声が多いが、悪化を見込む声も複数聞かれた。



[企業からのコメント]

- ・「ものづくり関係の景気は底辺で停滞しており、世界的な経済の活性化が望まれる」「ここ数か月が底になると判断している」「仕事量が減少との声は多いが、当社取引先で動きの良い所もある」「産業機器は中国経済の減速により、設備投資が低迷。車輜関係は少しずつ回復してきた」
- ・航空・宇宙・防衛分野は依然として好調を維持できる予想だが、昨年末より受注が落ちているロボット部品は来春まで低調な予想。医療器関連はやや上がってきている。中国など、海外の影響を注視している。
- ・メイン輸出国である中国の景気後退により、販売、受注数が減ってきている。これからの世界販売先は自国ファースト（現地生産）割合が上がってくる様子で、メイドインジャパンにこだわった生産体制は今後変わっていくと予想される。

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- ☑売 上… 漬物は前月比、前年比とも業者により増減分かれる。菓子は前月比減少との声が多い。景況感については業者により見方が分かれた。

[企業からのコメント]

- ・「物価高が続き、消費者の買い控えの影響が出ている」「値上げにより販売金額は増えているが、数量は減少」「秋に入り売上は落ちている」「値上げによる消費動向が心配」
- ・「食品全般の値上がりが続く、買上げ点数の低下が著しいとの話が聞こえてくるが、材料費の上昇は自助努力では如何ともし難く、価格への変化が不足している。今後もこの傾向は続くのでは」「業界では値上げがあまり進んでいない様子」「原材料の値上げが利益に大きく影響してきている」
- ・人員確保のため募集も行っているが、条件面で他業種との差が開いてきていることに危機感を感じる。

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売 上… 前月比はやや増加～増加、次月以降も増加を見込むとの声。景況感は横ばい～好転、次月以降もやや好転を見込むとの声。

[企業からのコメント]

- ・新型コロナ感染予防規制も緩和され、各地神社への参拝客も増加。昨年度まで自粛していた催事・祭事も再開され各地大きな賑わいを見せている。部材仕入価格高騰により販売価格改正を実施したが、受注状況は影響少なく増加している。
- ・昨年からの販売価格の修正があり少々売上は伸びたが、経費も同じく増加し、収支はほぼ横ばいで推移した。来年に向けてさらに仕入値が上がるため、再度の値上げが必要になる。

●上記以外の製造業

- ☑食品製造……… 販売は、前月比やや減少～横ばい。景況感は横ばいとの声が多い。
- ☑建築用金属製品… 販売は前月比横ばい、受注残高は前月比増加。景況感は横ばいという。
- ☑自動車向け部品… 販売は前月比横ばい～増加。景況感は横ばい～やや好転。
- ☑印刷… 販売は前月比やや増加～増加、前年比では業者により増減分かれる。原材料単価は、上昇が続く見込みという。

[企業からのコメント]

- ・「食料品は相次ぐ値上げにより消費意識の減衰傾向が窺える。買控えや節約意識がより一層高まっている」「原料高をコストに反映したが、その分受注が減った。売価を上げない競合他社もある。また消費者の物価高への意識も高く、消費も減少」「個人の観光客の影響か、休日に売上が集中しておりウィークデイは少ない。団体客がまだ復活していない」
- ・自動車用の部品の需要はプラス傾向であるが、中国向けの輸出品は増減のバラツキが大きい。
- ・「少子化の影響により、保育園・小学校関連の印刷物が小ロットもしくは内製化され、仕事が減少」「インボイス制度への対応で帳票類の受注が増えたが、いずれ落ち着く」
- ・「食品原料の高騰による値上げ反動は受注量に影響を及ぼし減産傾向にある」「印刷紙の値上げが何度もあり一区切りかと思っていたが、合成紙全般が値上げとの情報あり」「粘着紙関連はメーカー揃って値上げ。メーカー値上げをそのまま転嫁するのは無理で、数パーセントは自助努力する」
- ・「現場の人員不足により、大型物件の進捗がどこも遅れ気味」「人員不足につき募集中」「営業系の採用が急務」

建設業

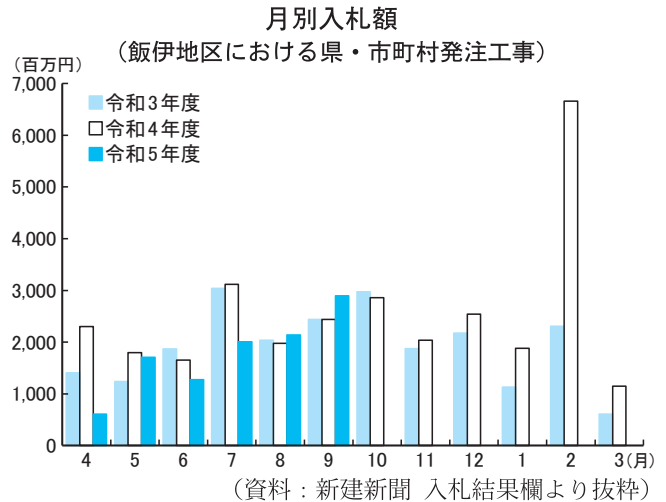
官公需

概況 9月の公共工事入札金額は前年比で18.9%増加、一昨年比でも18.8%の増加

☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約28.9億円（10月15日調査時点）。前年に比べ18.9%増加、2年前との比較では18.8%増加。

☑受注残高…………… 前月比は業者により分かれるが、横ばいとの声が多く聞かれる。景況感は大変な変化はないとの声が多いが、先行きはやや好転を見込むとの声が多い。

☑原材料価格…………… 前月比は横ばい～上昇で、下降したとの声はなかった。先行きの見込みについても横ばいとの声と、上昇との声に分かれる。



[企業からのコメント]

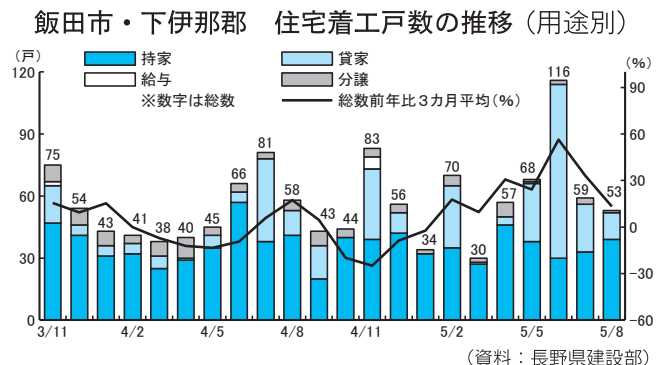
- ・例年に比べて土木工事は横ばいの感じがするが、今後は6月上旬の豪雨災害復旧工事の発注が見込まれ、忙しくなりそう。ただ、技術者不足、労務不足で、工事が受注できるか不安もある。
- ・「災害関連工事の設計等により、通常公共工事の発注が遅れている」「県、町村ともに発注が活発化しているが、それに対して人手が不足している状況」
- ・「業務量はあるが、技術者が不足」「施工社員が不足」「求人活動は継続して行う」「技術者不足」

民需

概況 令和5年8月の住宅着工戸数は53戸で前年比9%減。
持家、貸家ともにほぼ横ばいも、2か月続けての前年比マイナス

☑住宅着工戸数… 当地区の8月の住宅着工戸数は53戸。前月比10%減、前年比では9%減。持家の戸数は39件と、前年（41件）とほぼ変わらず。貸家は13件で、こちらも前年（12件）とほぼ同じ。分譲が1件で、前年（5件）から減少した。

☑原材料価格…………… 前月比では概ね横ばいとの回答が多く見られるが、次月以降は上昇を見込むとの声が多い。



[企業からのコメント]

- ・建築は大型物件がなく忙しくないため、職人たちは他の地域に仕事に行っている状況。
- ・燃料の値段もやや下がり、資材等の値段も落ち着いた気がする。
- ・「従業員募集を色々な媒体等を使ってかけているが、なかなか思うように集まらない」「技術者、営業等は通年で募集」「建設業関連は人員不足が顕著。2024年問題に関しても喫緊の課題となる」

建設資材等

概況 9月の生コン売上は前月比やや増加～増加。骨材売上も前月比で増加

☑生コン … 売上は前月比ではやや増加～増加、前年比では業者により増減分かれる。

☑骨材 … 売上は前月比では増加、前年比では業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、工場建設、砂防・治山工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約1割。
- ・全体に、仕事が薄い感じが強い。

商業・サービス業

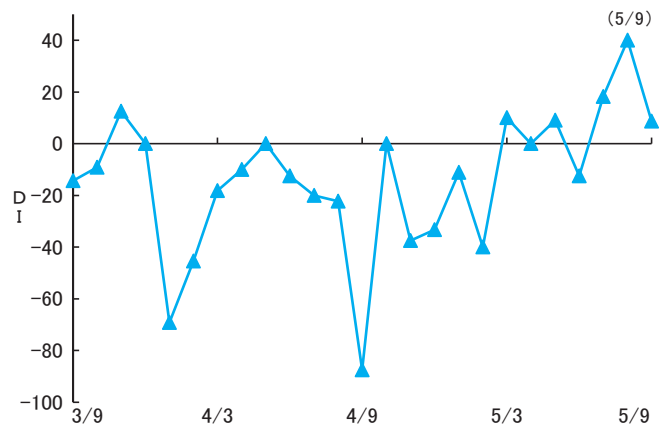
概況 景況感は悪化。物価高により売上増加も販売数量は減少との声

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、プラス8.7で、前月から31.3ポイント低下。

先月好調だった宿泊業では、夏休みシーズンが終わってやや落ち着いた状況との声が聞かれた。ただ、昨年同時期はコロナ感染が拡大している時期だったため、前年比では売上増加との声も多い。

幅広い業種で物価上昇による影響が聞かれ、小売業では売上は伸びているものの販売数量は減少しているとの声が複数寄せられた。飲食業では需要の回復に合わせて価格改定を行い、原材料高への対策を実施したとの声も一部に聞かれたが、一方で、客数減少を危惧して価格を上げられないとの声も聞かれた。

商業・サービスD I



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれる。前年比は横ばい～やや増加

✓売上 … 前月比は業者により増減分かれる。景況感は横ばいとの声が多い。

[企業からのコメント]

- ・「売上は値上げの影響もあり6月以降回復してきている。ただ買上げ点数は下がっており回復の見通しは立たない。来店客数は増加傾向にある。他のスーパーも売上は増加傾向にある」「値上げに伴い販売金額は増額、販売数量は減少」
- ・車業界はスタッドレス等ウィンター商戦に間もなく突入。暑い夏の後には厳しい冬を期待。降雪次第で売上影響大。
- ・中古車取扱業者の不祥事が問い質されているため、業界全般に対する消費者の不信感がある。地元の企業として嘘のない正直な商いを続けることで、土着の企業としての信頼をより強固にするチャンスであると捉えて、精進する必要があると感じている。

●卸売業 概況 売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれる

✓売上 … 青果の売上は前月比増加、食品は業者により増減分かれる。電設資材は前月比減少。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、高温少雨の影響で葉物や軟弱野菜の生育不良から水菜、小松菜、みつば等が非常に高い。果菜類もトマト、ピーマン、ナス、胡瓜が高く野菜全体では入荷量、価格ともやや高。松茸も高温少雨で入荷ゼロ、10月に期待。果実は、りんご、梨ともに入荷量減で価格は大幅に高い。ぶどうはシャインマスカット以外は入荷量減。果実全体では入荷量減、価格高。
- ・業界は天候の影響が大きい。また円安により輸入に影響が出ている。
- ・売上面では、夏が終わり季節商品（エアコン等）のピークは過ぎ、冬の季節商品（暖房器具等）に向けて落ち着いた様子。LED照明や省エネ家電は引き続き需要がある。仕入面では、運賃、人工のコスト面での値上がりが大きく、最終的な仕入額を押し上げている。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 飲食業は前年比で売上増加との声が多い。宿泊業では業者により増減分かれ、好調だった8月に比べ景況感が悪化したとの声も

✓売上 … 飲食業、運輸業は前年比増加、宿泊業では業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・「残暑が厳しく、昼は客数が少ない。夜は好調」「8月はコロナ明け初のお盆夏休みで、人の流れが戻った分、反動が9月に来た感じ」「ビュッフェレストランが新しくオープンし、ランチはかなり影響を受けている」「秋の山行き関係で少し売上が伸びそうな感じ。予約状況は良いが、特定の日に偏っている」
- ・コロナ禍を過ぎ、宴会需要の回復に伴い価格のほとんどを改定し、食品仕入の高騰に対する策を講じた。
- ・「8月は1年のピークのため前月比は減少したが、前年比では大きく上昇」「夏休み後、9月に入り全体的にやや動きがないと感じる」「10月、11月は予約好調だが、12月の忘年会が全く入っておらず、冬場の売上が心配」「週末になると天候が悪くなり、星空目当てのお客様には本当に気の毒と思うが、こればかりは仕方ない」「過去、消費税10%になった時に値上げをして以来、料金を変えていない。仕入単価上昇しているが、より多くのお客様にきてもらいたい価格転嫁できない」
- ・タクシー需要の回復に伴って、供給側の人員確保が近々の重要な課題である。コロナ禍で2割以上の人員が減少しており、繁忙時間帯での供給体制が整っていないためにお客様に対応しきれない。

新幹線駅と地域づくり・まちづくり

～上田市・上田駅地域の現状と課題から考える～

飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所

1 上田市の現況

(1) 上田市の発展と交通インフラ

上田市は、東信地域の主要都市で人口152千人（令和5年10月1日）の県内第3位の規模となる。上田市はまた、市制施行（大正8年5月）が県内3番目の歴史ある市でもある（長野市 明治30年4月、松本市 明治40年5月、岡谷市 昭和11年4月、飯田市 昭和12年4月、諏訪市 昭和16年8月）。

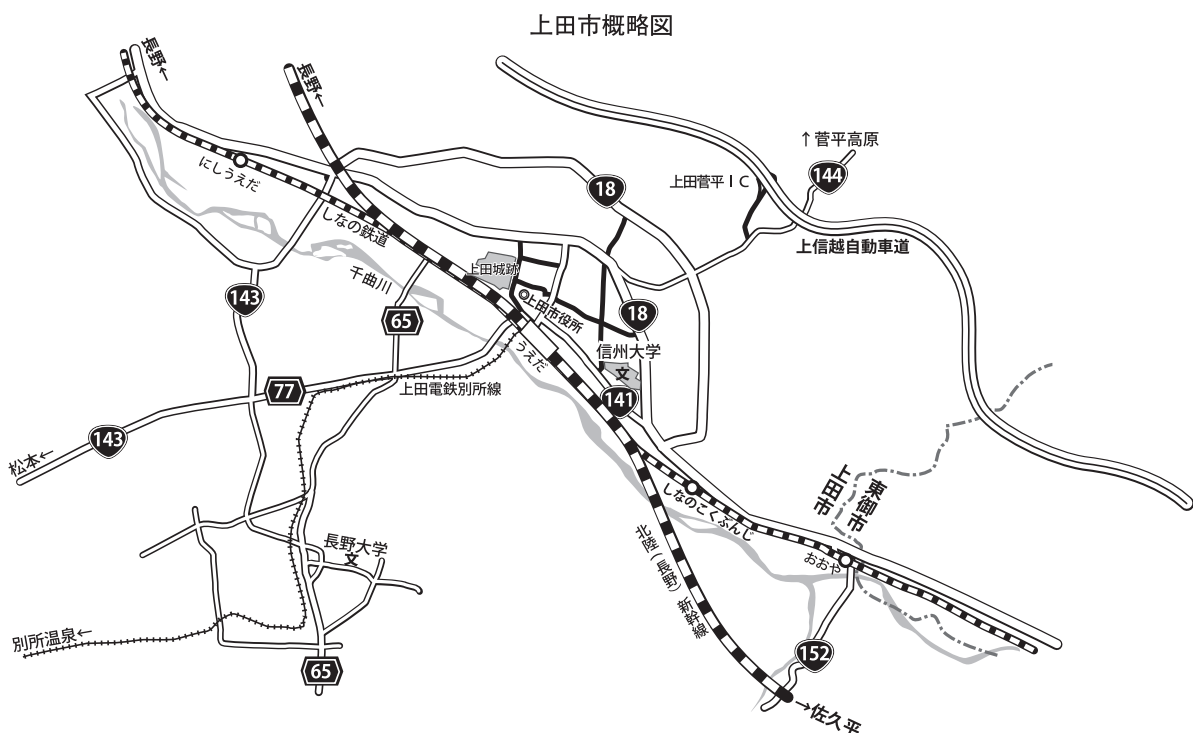
経済活動面では、市町村別の事業所数・従業者数で上田市は長野市、松本市、上田市、飯田市の順で第3位。製造品出荷額は、他を引き離して塩尻市がトップの他は、長野市、松本市、上田市、飯田市の順となっている（令和元年）。年間商品販売額（卸・小売業）でも上田市は長野市、松本市、上田市、飯田市の順で県下第3位の位置を占める（平成28年）。

このように上田市は城下町として早くから開け、近代になって国鉄（JR）信越本線、国道18号線、そして近年では北陸（長野）新幹線、上信越自動車道という交通インフラに恵まれており、これらがこれまでの上田市発展の重要な基盤となってきたことは否定できないであろう。

(2) 上田市調査の概要

今般、当地域のリニア中央新幹線開通を見据えて、新幹線が産業経済面にどのように作用し、当上田市の市勢にどのように具体的な効果をもたらしたかを考察し、以て当地域の今後の対応について検討することは意義あることと考え、上田市を訪問して現地を見分し、上田市役所の担当部署様からの説明を受けた。調査は当研究所研究員3名で当たり、それぞれの項目についてまとめを行っている。

今回ご多忙のなか視察対応をいただいた上田市都市計画課様をはじめ各部署様には深甚の感謝を申し上げたい。



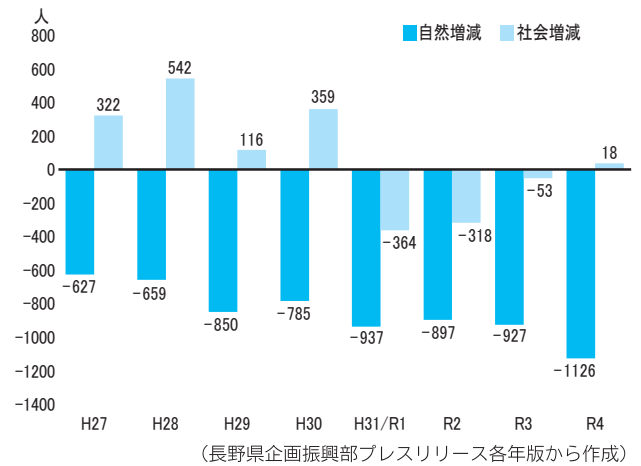
2 上田市の人口変化の特徴

(1) 上田市の社会増減の変化

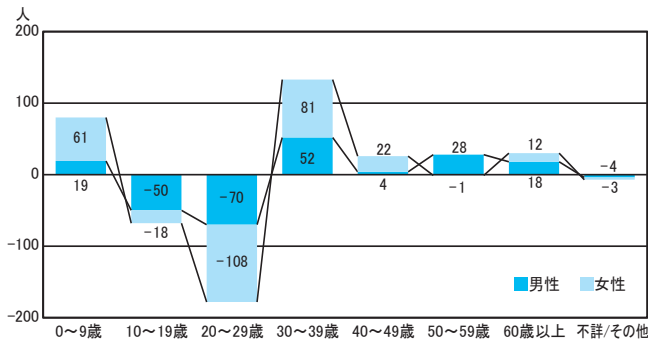
平成27年からの上田市人口の自然増減と社会増減の推移は右グラフ1の通り。同市においても、近年は自然減が社会増を上回る状況が続き、人口は減少傾向にある。社会増減については、平成30年までは社会増となっているが、令和元年～3年は社会減に転じている。

同市における平成30年と令和4年の社会増減を性別・年齢区分別（グラフ2、3）で比較してみると、平成30年では30代と10歳未満の社会増が目立っているが、令和4年ではその幅が縮小していることが分かる。特に30代の男性は令和4年には社会減へ転じている。また、令和4年では20代の社会減が増加しており、これらが平成30年頃までの社会増が続いていた状況を変化させた可能性が考えられる。

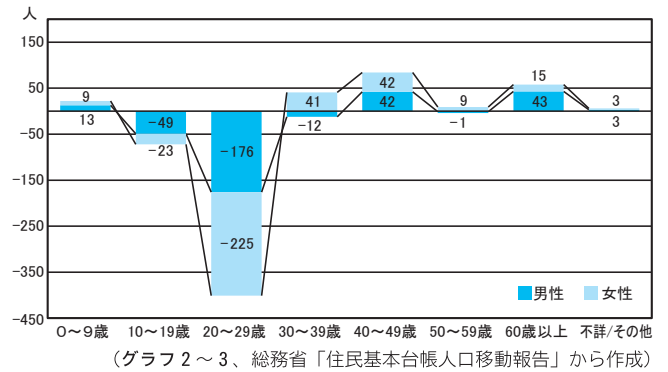
グラフ1 上田市 自然増減と社会増減



グラフ2 性別・年齢区分別転入超過数 上田市 平成30年



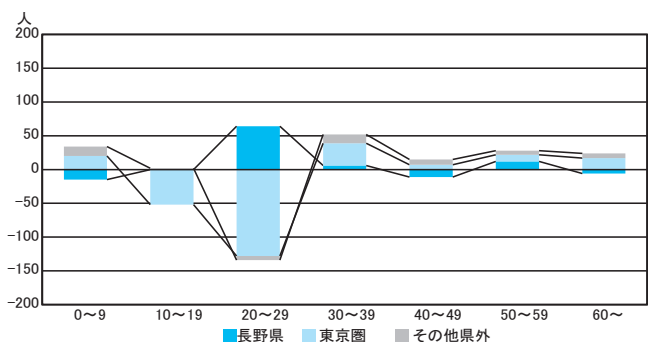
グラフ3 上性別・年齢区分別転入超過数 上田市 令和4年



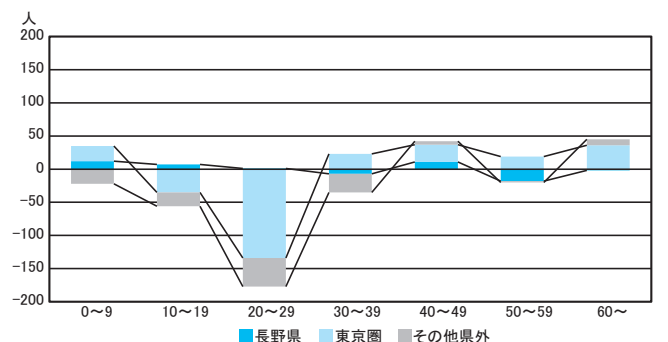
また、移動前の住所地を見て平成30年と令和4年を比較してみると、男性では「20代の、長野県内からの社会増が縮小した」「30代の、その他県外（東京圏（1都3県）以外）の社会増が社会減へと転じた」ことが分かる（グラフ4～5）。女性では、「20代の、その他県外の社会減が拡大した」「30代の、その他県外の社会増が社会減へと転じた」ことが読み取れる（グラフ6～7）。男女に共通するのは、その他県外の社会減が拡大していることである。

この社会増減の推移について、同市の都市計画課に伺ったところ、「社会増については、各種の移住政策に加え、上田駅西側のJT工場（平成17年に閉鎖）跡地の住宅団地の整備などを進めた結果と推察しているが、令和以降の社会減については正直よく分からない」とのことであった。

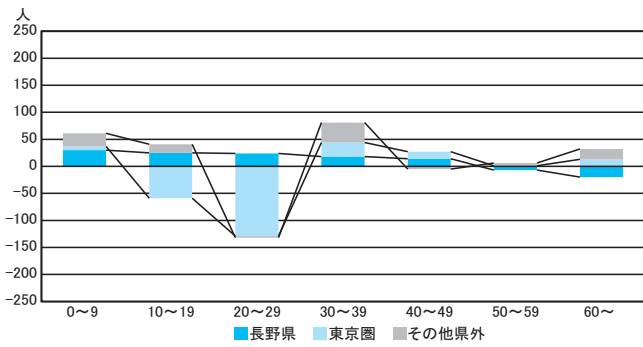
グラフ4 年齢区分別純移動数 上田市男性 平成30年



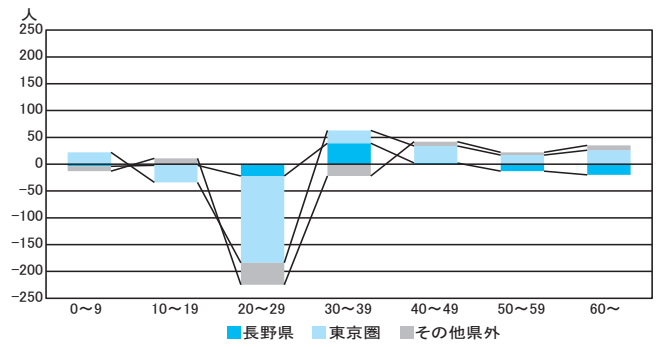
グラフ5 年齢区分別純移動数 上田市男性 令和4年



グラフ6 年齢区分別純移動数 上田市女性 平成30年



グラフ7 年齢区分別純移動数 上田市女性 令和4年



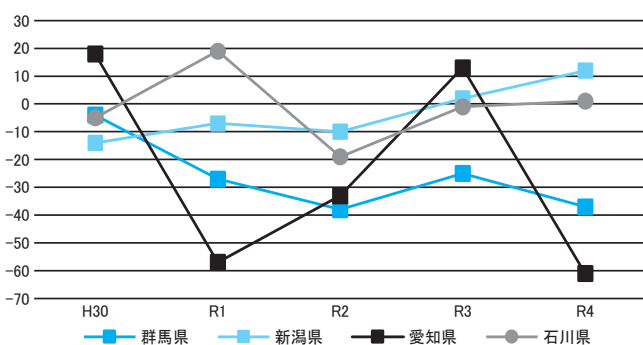
(グラフ4~7、総務省「住民基本台帳人口移動報告」から作成)

新幹線に関連する話として、「平成27年の北陸新幹線延伸により、以前は4時間かかっていた金沢まで1時間半で行けるようになったことで、北陸方面への進学なども選択肢に入ってきている」(都市計画課)との話もあり、新幹線駅があることによる人の流動性の高さが影響している可能性も考えられるが、新幹線延伸と、社会増から社会減へ転じた時期は一致しないため、明確な原因とはいえないと考える。

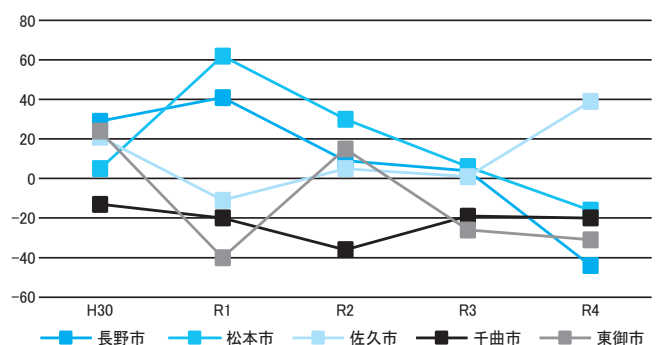
(2) 上田市から県外および県内他市への社会増減の変化

次に、社会増減がどの地域との間に多く発生しているかを確認したものがグラフ8、9(データが確認できる平成30年から令和4年まで)。上田市はその他県外の社会減が拡大していると先述したが、令和4年では愛知県への流出(61人)が多くなっている。また、群馬県へはこの5年間とも流出となっており、1年間平均で26.2人が流出している。新幹線延伸の影響が考えられる石川県は、明確な傾向は見られなかった。また、県内他市においては、令和4年は長野市への流出が多く(44人)、佐久市からは流入していた(39人)。隣接している千曲市へは5年間流出が続いており、1年間平均で21.6人が流出している。佐久市が、教育環境の充実を図ることで子育て世代の社会増を実現していることは本誌(No.527)でも述べたが、少なくとも上田市から佐久市への人口移動が起こっているとは言えない結果となっている。

グラフ8 上田市から県外への社会増減(平成30年~令和4年)



グラフ9 上田市から県内他市への社会増減(平成30年~令和4年)



(グラフ8~9、総務省「住民基本台帳人口移動報告」から作成)

以上、いくつかのグラフから上田市の社会増減について確認したが、令和以降の社会減について明確な原因は見つけられなかった。ただ、東京一極集中が続き、人口が減少する現代においては、佐久市のように社会増が続く地域の方が稀であるとはいえる。リニア中央新幹線長野県駅(仮称)がつくられる当地域においても、継続的な社会増が起こる地域を目指すのであれば、人口の多い東京圏・中京圏から人を引きつける特徴ある取組を実施していく必要がある、ということであろう。

3 新幹線駅としての上田市

(1) 上田市における新幹線駅の位置

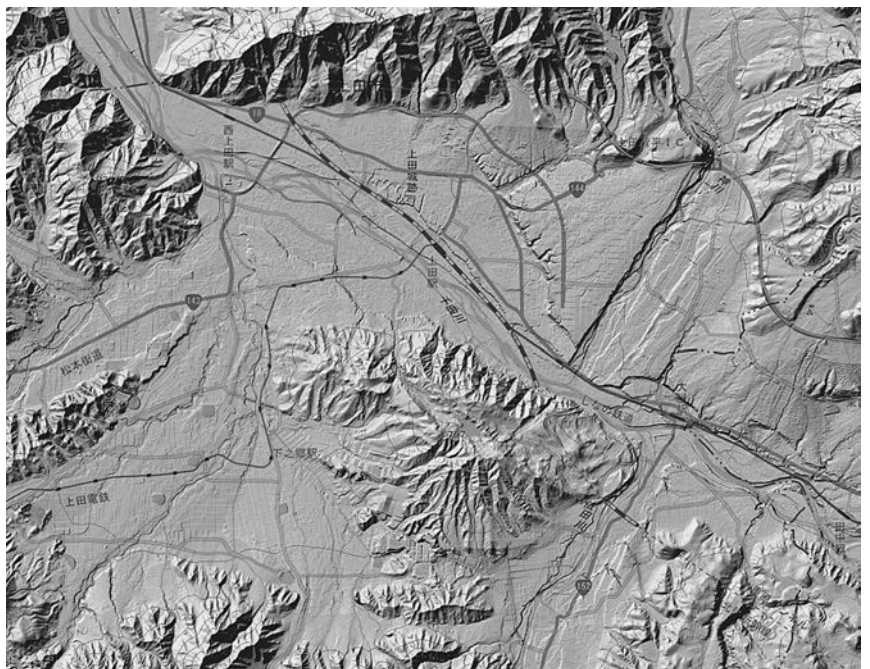
上田市は千曲川等により形成された平坦地の主に右岸に市街地が形成されてきた。佐久方面（中山道）と善光寺平（長野）・日本海とを結ぶ北国街道が通り、後に信越本線（現しなの鉄道）の上田駅が置かれ、新幹線駅ともなった。

上田市の中心市街地の展開は上田城築城による城下町の形成を基礎とするものと思われるが、上田城は千曲川とそれに続く段丘状の標高差を自然の要害として利用したもので、上田市役所（標高455m）など市の中心施設が上田城大手門に面した平らに展開している。上田駅のある地点（同446m）はその市街地から一段下の千曲川端の平にあり市中心部とは段差（標高差）があるが、その差は概ね10～20mとなっている。これは飯田市の国道153号が通る上郷飯沼・別府付近（標高410～420m）と飯田市役所辺り地点（同498～500m）との標高差80～90mと比べると僅かであり、上田駅前から市中心部へ向けて勾配がややあるものの、直線的に道路（県道77号長野上田線・国道141号旧北国街道）を通すことが可能となっている。

千曲川右岸は新幹線と在来線、国道18号とそのバイパス、上信越道が通りインターチェンジ（上田菅平IC）も設置されて主要交通網が集中する。地形図で見る通り右岸の平坦部には上信越道上田菅平IC周辺の地区に世帯人口増が見られるが、相対的に広い千曲川左岸の平坦地や続く塩田平の方に市街地の形成が大規模に進んでいる。

この地形を考慮すると、新幹線新駅として千曲川右岸に設置する場合、国道18号バイパスから上信越道上田菅平IC間辺り（標高540m前後）を想定すれば、中心市街地とかなりの標高差が生じることに加え、上田市の東御市境辺りから市街地を横断して山際へ向かうことになり、相当数の移転対象が出る。かといって千曲川左岸の平坦地に新駅を設置することは上田市民の感情から受け入れづらいものがあったのではないかと考えられる。JR信越線（現しなの鉄道）に沿って新幹線を敷設するとむしる移転対象が少なかったと考えられ、北陸新幹線上田駅の設置は自ずと現駅併設にならざるを得なかったのではないかと考えられる。

上田市周辺の地形の状況 陰影起伏図



(国土地理院地図データベース(同HP)より)

(2) 新幹線乗車人員の推移

コロナ禍により、新幹線による移動が減少、県内新幹線駅の乗車人数も大きく落ち込んだ。

最新のデータである2022（令和4）年分県内の新幹線利用の動向は、数次のコロナ感染波来襲が見られたものの、徐々に移動の回復＝乗車人数の増加が窺われる状況となった（次頁グラフ）。

22年度の新幹線県内各駅（軽井沢・佐久平・上田・長野）の状況をコロナ禍前の19年度の水準と比較する（下表）。非定期乗車は、軽井沢駅の△7.7%の他は、20%台（佐久平・上田）もしくは20%前後（長野）となっている。軽井沢駅の乗車人数の回復が進んでいるのは、コロナ禍で進んだ首都圏・関東圏からの移住・避難行動との関連が窺われる。

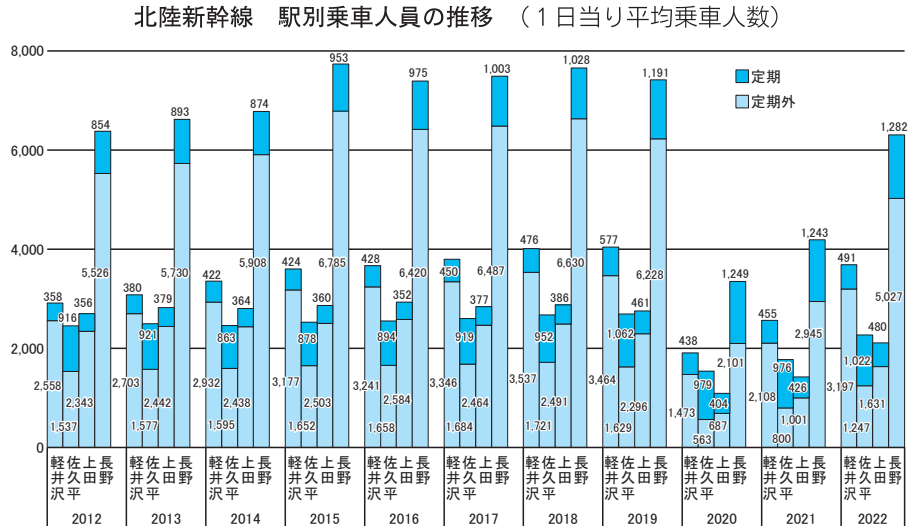
非定期・定期別乗車人数回復の状況

(単位：人、%)

	2019年		2022年			
	非定期	定期	非定期	増減率(%)	定期	増減率(%)
軽井沢駅	3,464	577	3,197	△ 7.7	491	△ 14.9
佐久平駅	1,629	1,062	1,247	△ 23.4	1,022	△ 3.8
上田駅	2,296	461	1,631	△ 29.0	480	4.1
長野駅	6,228	1,191	5,027	△ 19.3	1,282	7.6

定期乗車は、軽井沢駅、佐久平駅は19年水準に達していないが順調に回復している。当上田駅と長野駅は19年水準を上回った。

上田駅は底値である20年実績からの増加率が非定期・定期とも佐久平駅を上回り、20年に乗車人数計で初めて佐久平駅を下回った状況から、22年では同駅と拮抗するところまでとなっている。



J R 東日本発表 (同社HP) 飯山駅の実績は金沢延伸の2017年度からとなるため除外

20年から22年の増加率

〈非定期乗車〉

佐久平駅 121.4% 上田駅 137.4%

〈定期乗車〉

佐久平駅 4.3% 上田駅 18.8%

上田市の非定期乗車人数の増加率が佐久平駅を上回っているのは、ある程度観光の回復があり、観光資源等が相対的に優位な上田市により効果的に働いているためと考えられる。

定期乗車の回復率で上田駅が佐久平駅を上回っていることについては、要因は現状不明であるが、コロナ禍以降のリモートワークやそれに伴う新幹線通勤の普及が進むなか、新幹線通勤で従来佐久平駅に比べ劣位にあった上田駅により伸びしろがあったのでは、という仮説を挙げておく。

(3) 北陸新幹線の停車パターンからみる輸送需要動向

北陸新幹線の車両運行状況を次頁表に県内新幹線駅から終点金沢駅までの各列車の運行状況をまとめた(令和5年3月改正ダイヤによる)。

〈概況〉

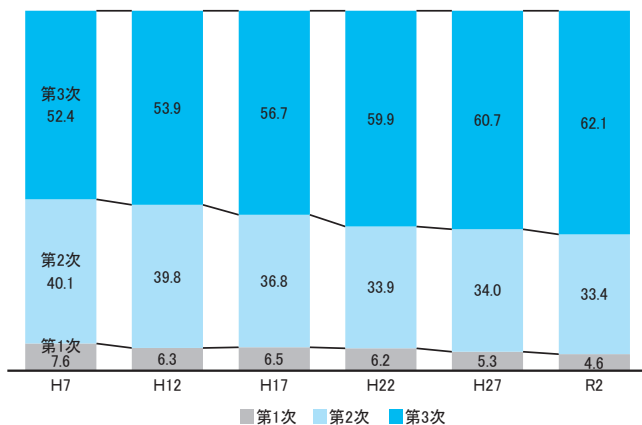
- ・季節の臨時列車は除いている。
- ・表の他に、金沢・新高岡・富山駅間を往復するシャトル新幹線の「つぎ」(毎時2本、7時台・19時台は各3本)がある。
- ・東京・長野間を運行する「あさま」は、緩行列車(各駅停車)で、全列車県内全駅に停車する(下り1日18本、上り同17本)。但し、上りの朝8時台(あさま602)に上田・佐久平駅を通過するのが1本ある。
- ・速達特急「かがやき」は、長野県から先は全列車が長野・富山・金沢駅停車で固定されている。
- ・緩行特急の「はくたか」は原則各駅停車であるが、
 - ・軽井沢・佐久平・上田・飯山駅を通過するパターンの列車 1日2本
 - ・軽井沢・佐久平・上田駅を通過するパターン 下り 1日1本 上り 2本
 - ・佐久平・上田駅を通過するパターン 1日1本
 - ・佐久平駅のみ通過 1日1本
 - ・飯山駅のみ通過 1日1本
- ・前項から、県内駅毎の通過する列車の本数は、上下とも1日、
 - ・佐久平 5本
 - ・上田 4本
 - ・飯山 3本
 - ・軽井沢 下り3本 上り4本
 となる。

4 新幹線と産業構造

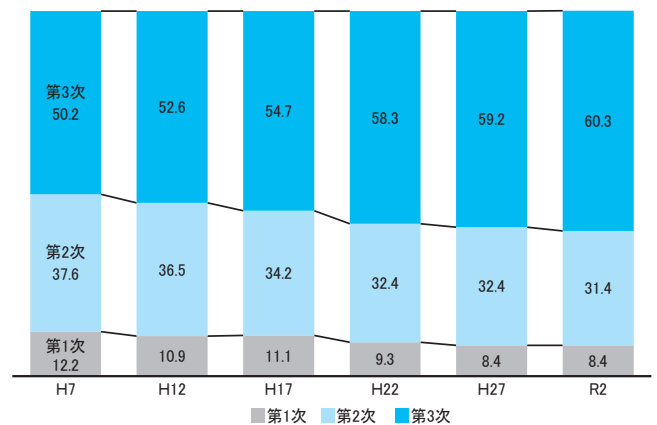
次に上田市の産業構造について触れる。上田市の産業別就業人口の推移を飯田市と比較したものがグラフ10、11になる。北陸（長野）新幹線開通の平成9年を含む期間の推移を見ると、平成7年から令和2年の25年間で、上田市は第1次産業7.6%→4.6%（△3.0ポイント）、第2次産業40.1%→33.4%（△6.7ポイント）、第3次産業52.4%→62.1%（+9.7ポイント）であるのに対し、飯田市は第1次産業12.2%→8.4%（△3.8ポイント）、第2次産業37.6%→31.4%（△6.2ポイント）、第3次産業50.2%→60.3%（+10.1ポイント）となっている。

新幹線開通に合わせて佐久平駅周辺の大規模開発を行った佐久市では、第3次産業へのシフトがより特徴的に見られた（平成7年46.2%→令和2年63.3%）が、上田市については飯田市と概ね似通った推移を見せていることが分かる。このことから、新幹線が開通するだけで産業構造が大きく変化することはなく、それに付随した開発などによる影響の方が大きいと考えられる。

グラフ10 産業別就業人口推移 上田市



グラフ11 産業別就業人口推移 飯田市



（グラフ10～11、総務省「国勢調査」から作成）

上田市からは、「工業出荷額は平成8年（6,900億円）にピークを迎えた後は減少傾向で、令和元年では5,177億円にとどまる。JT上田工場の閉鎖（平成17年）はあったが、その他の大規模な工場の移転はない。リーマンショックの影響もあると感じている。新幹線開通による効果というものは、工業出荷額の数値を見る限りは感じられない」、「新幹線が通るから街が賑やかになる、という認識は誤り。企業誘致を含めて、いかにまちづくりを進めるかが重要」（以上、都市計画課）、「新幹線開通によって人の流動化は加速する。人手不足をどう解消するかは大きな課題」（商工課）、「新幹線開通により、ビジネス客の出張による宿泊の需要は確実に減少した」（観光シティプロモーション課）との話を伺った。

上田市の新幹線駅は既存駅への併設であったため、佐久市のように大規模な駅周辺開発は行えず、産業に関する影響は限定的であったように見受けられる。当地域に建設されるリニア中央新幹線長野県駅（仮称）は既存駅への併設ではないものの、周辺の開発余地が小さいという点においては、上田市の方が参考にできる部分もあるのではないかと感じた。

5 上田市の特徴ある政策 ～上田市スマートシティ化推進計画～

(1) 上田市スマートシティ化推進計画

令和3年に発足した岸田内閣が始動した「デジタル田園都市国家構想」や、同年の長野県「長野県DX戦略」の策定など、行政が主体となってICT（情報通信技術）やAI（人工知能）などの先端技術を活用する、デジタルトランスフォーメーション（行政DX）の取り組みが進んでいる。

こうした動きは市町村においても例外ではなく、例えば飯田市でも、令和4年3月に「飯田市行政事務DX推進方針」が策定された。

上田市でも、令和3年度から5年間の「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画」で「最先端技術活用プロジェクト」を重点プロジェクトの一つとして位置付けている。「上田市スマートシティ(※)化推進計画」は、これを具現化するものだが、その取り組みの萌芽は、令和元年4月に「上田市政策研究センター」を設置し、1年かけて地域の課題や市の進むべき方向を研究したことにあるという。その中で、「人口減少社会に加え、住民ニーズが多様化する時代においては、デジタル化を進めていかないと対応できない」とする方向性が打ち出されたのだった。

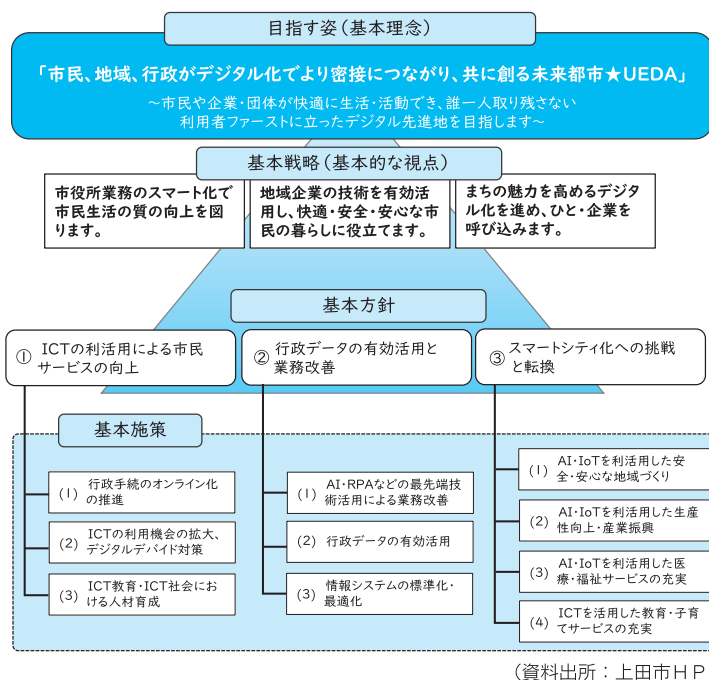
そもそも「スマート」とは、「賢い」とか「洗練された」といった意味を持つ言葉で、「コンピューターによる制御、処理能力を搭載した」といった意味もある。行政が主体となったスマート化の取り組みには実に様々なものがあるが、上田市によると、これらを大きく分ければ、「①自治体そのもののスマート化」、「②地域の課題解決に対応するためのスマート化」の2つの視点があるという。

右の図は「上田市スマートシティ化推進計画」の体系図だが、この中で「基本方針1 ICTの利活用による市民サービスの向上」、「基本方針2 行政情報の有効活用と業務改善」が、主に「①自治体そのもののスマート化」の視点から導かれるもので、市民の行政手続きのオンライン化や、RPA(※)、AIなどの最先端技術を活用した庁舎内の業務改善などが図られる。

一方、「基本方針3 スマートシティ化への挑戦と転換」が、主に「②地域の課題解決に対応するためのスマート化」の視点から導かれるものとされ、AI、IoT(※)を用いて、まちづくり、産業振興、医療・福祉や教育・子育てといった分野における地域課題の解決を目的とした施策が展開される。

上田市の場合、「①自治体そのもののスマート化」については、役所内に情報システム課を立ち上げ、職員向け研修に力を入れているという。

加えて、「②地域の課題解決に対応するためのスマート化」で特色ある取り組みがあり、今回はその中からいくつかご紹介したい。



※「スマートシティ」:「都市の抱える課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な環境配慮型都市または地区」(国交省「スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】平成30年8月～」)と定義されている。

※「RPA」:「Robotic Process Automation。これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を、人間に代わって実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用して代行・代替する取り組み」

※「IoT」:「Internet of Thingsの略称。直訳すると「モノのインターネット」。簡単に言えば「身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながる技術」

(2) 「公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト」

スマートフォンをかざすだけで運賃の支払が完了する光景は、都会の駅の改札やバスの乗降でよく見かけるが、これなら乗客は切符を買う必要はないし、改札の駅員も他の業務に当たることができ、ワンマンカーの運転手の現金決済の手間を省く、現金管理業務が軽減されるといったメリットがある。

上田市の「公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト」は、高齢化が進み、一人一台車を保有する地域社会で、公共交通機関を維持するという、「一丁目一番地」ともいうべき政策課題の克服を目指す取り組みの一つである。市内公共交通機関のキャッシュレス化を推進して、利用者の利便性向上、公共交通事業者の生産性向上を実現し、公共交通事業者の採算悪化を食い止めようとするプロジェクトである。

ただ、Suicaなどの交通事業者系ICカードは、導入、運用コストが高く、地域の交通事業者が導入するには敷居が高かった。

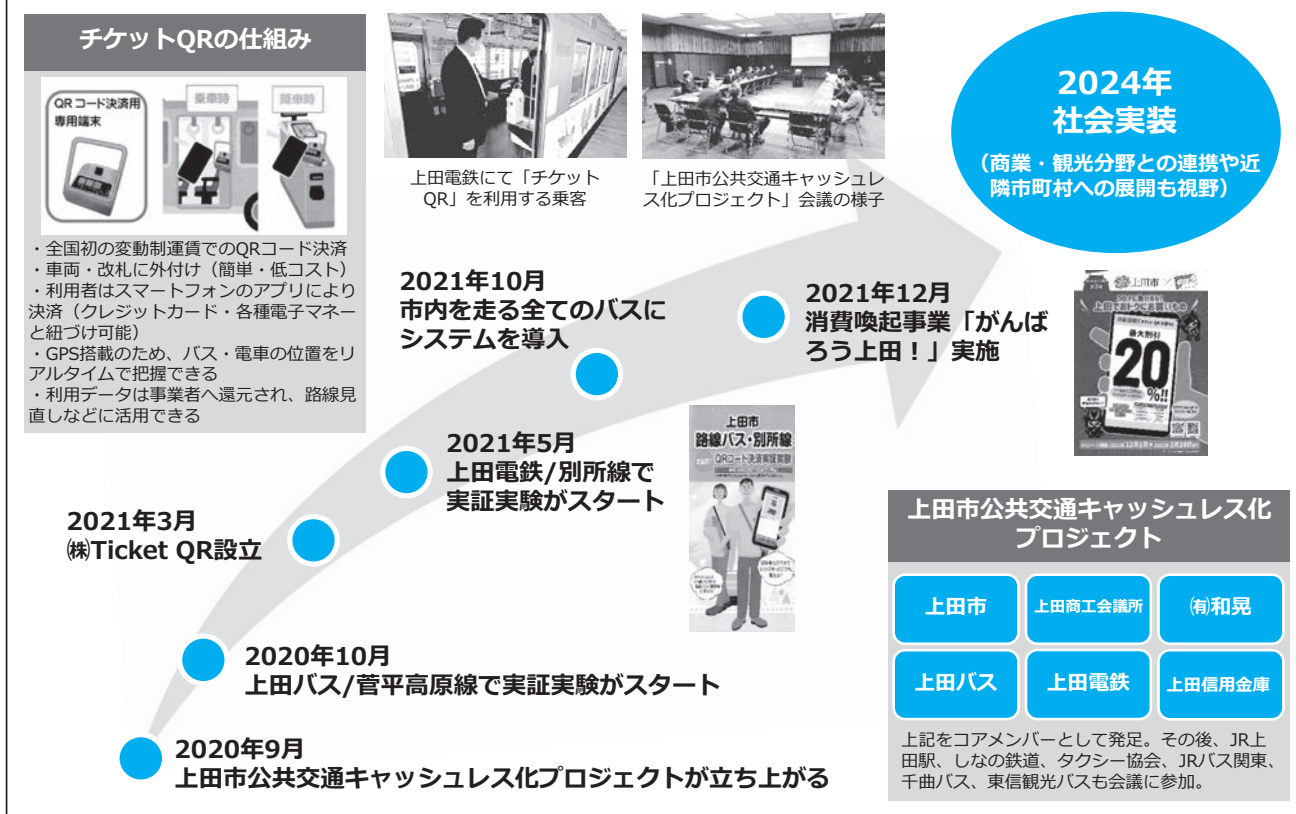
ところで、従来からQRコードを利用した決済システム開発に定評のあった、坂城町にある有限会社和晃は、スマートフォンの「TicketQR」アプリを開発した。これは、利用者がスマートフォンに「TicketQR」アプリをダウンロードし、このアプリでスマートフォンにQRコードを表示させて、乗降時に車両に設置された専用端末に読み取らせれば決済完了となるもので、上田市によれば、このシステムは導入・管理コストが低廉で、特に事業者にとってのメリットが大きいという。

車両に設置された専用端末にはGPSが内臓され、その位置情報から利用客の乗降場所が特定できるため、距離による運賃の変動などにも自動的に対応できるのだが、これは日本初の仕組みだという。また、スマートフォンを持たない高齢者なども、窓口でQRコード入りのプリペイドカードを購入すれば、現金を支払う必要がないし、定期券利用にも対応している。

しかし、このような技術力を有する企業でも、交通機関の導入先の当てがなかった。これを上田市のスマートシティ化に結び付けたのは上田信用金庫だった。令和2年10月に実証実験がスタートし、現在では路線バス4社20路線、上田電鉄別所線で利用可能となっている。また、対象店舗で買い物をする際に、アプリ内で発行された割引チケットを利用できるようにすることで、コロナ禍で影響を受けた市内小売店や飲食店の消費喚起事業にも利用された。令和4年からは市内タクシー事業者も導入しているという。

根強く残る現金払いの習慣など、いくつかの課題があるというが、県内他地域への展開や、蓄積されたデータを活かした観光など他分野の課題解決や地域活性化に資することを期待しているという。

6. スキーム図等



(資料出所：上田信用金庫)

(3) 「消防団災害活動支援事業」

この事業は、現役の消防団員がつくった消防団のためのアプリ「コミュたす」を導入したもので、消防団員各自が持つスマートフォンにアプリをインストールすることにより、消防団が災害活動を行う上での支援を行うもの。

このアプリでは、出動指令が通知されると共に、市から配信される火災情報に記載されている目標物から、自動で災害地点を特定した地図を、出動対象となる分団員に配信し、災害現場の特定を可能にすることができる。

また、当該地図には消火栓や防火水槽などの水利情報も表示される。被災状況や対処内容の登録も可能となっている。

アプリはLINEと連携することで、出動した団員の活動時間の管理も行うことができるようになっており、活動実績を登録することができる。

こうしたアプリを利用することで、迅速な災害対応、消防活動の安全性確保、作業負荷の軽減や、活動実績作成作業事務の軽減、報酬支給の透明性向上などの効果が期待されている。



(資料出所：上田市HP)

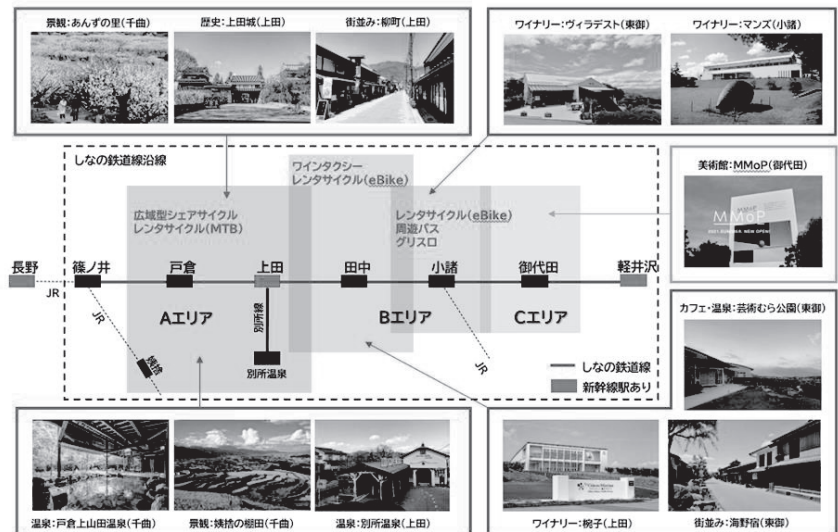
(4) 「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」

しなの鉄道線沿線地域（軽井沢町～長野市）には、例えば右図のような多数の地域資源が存在し、年間2,800万人の観光客が訪れているが、その8割が新幹線駅のある自治体（軽井沢町、上田市、長野市）に偏ってしまっているという。

そこで、新幹線駅がある自治体と、その周辺自治体や、既存プロジェクトを繋ぎ合わせ、自治体の垣根を超えた広域回遊のための環境構築を図る必要が考えられるようになった。

そのための方策に周遊バスや観光タクシーなどの試みもあるが、シェアサイクル、レンタサイクルによる周遊も方策の一つに挙げられた。上田市と千曲市の広域連携を図る「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」は、このような「広域型シェアサイクル」のリーディング・プロジェクトとしての側面がある。

このシェアサイクルでは、NTTdocomoの「バイクシェアサービス」アプリをスマートフォンにダウンロードし、上田市内なら14か所ある電動自転車ポートで、アプリで表示されるQRコードを自転車に設置された端末に読み込ませれば利用開始。クレジットカードによる利用代金決済も選択できるが、上田市、千曲市エ



(資料出所：UDC信州)



(撮影：しんきん南信州地域研究所)

リアで利用する場合は、(2)で述べた「TicketQR」も決済に利用できる。

上田市では、シェアサイクル利用者を対象とした特典・割引などをキャンペーンとして用意し、観光のみならず、市民の買い物、通勤、通学といった日常利用の活用による、ゼロカーボン推進や、市内産業振興等の効果も期待している。

(5) まとめ

上田市では、ここに挙げた施策の他にも、デジタルコミュニティ通貨の実証実験など、多くのスマート化に関わる施策を展開している。今後も、地域課題を解決するための「デジタル推進パートナー」を全国から募集し、上田市を実証フィールドとして提供し、多くの事業に取り組んでいく方向にある。これまで実施された施策の中には、進捗が芳しくないものもあるというが、適正に評価して今後の取り組みにつなげていくという。

今後、どの自治体においても行政DXの試みはますます増えていくと思われるが、その際、先行事例で用いられた手法を行政間を超えて横展開するなど、効率よく社会実装していくことが求められるのではないだろうか。

6 おわりに

以上、上田市の現状や取り組みについて紹介した。人口減少社会において、まちづくりの絶対的な解はないと思われるが、新幹線駅である上田駅を中心にコンパクトなまちづくりを目指し、地域の課題解決のためにスマートシティ化を推進する同市の積極的な取り組みは、大いに参考となる内容であった。

上田市と佐久市、新幹線が開通して四半世紀が経過した両市について調査をしてみると、様々な違いがあり、その中でそれぞれに特徴ある取り組みを進めていることが感じられた。それでも、人口が減少する現代の我が国において、佐久市のように社会増を継続するためには、都会から見ても訪れてみたい、住んでみたい、と思わせる魅力のある環境をつくらなければならない、ということであろう。リニア時代を見据える当地域においても、参考とすべき点は多いように感じられた。

当研究所では、今後も新幹線駅のある先進地域について調査・研究を行い、当地域のリニア駅開通を見据えた情報を提供していく予定である。先進地域の取組を知ることで、リニア時代の当地域のあり方について考える一助となれば幸いである。

SDGs サポートサービスのご案内

SDGs 経営でビジネスチャンスを広げませんか

SDGs サポートサービス

このようなお客さまにおすすめです

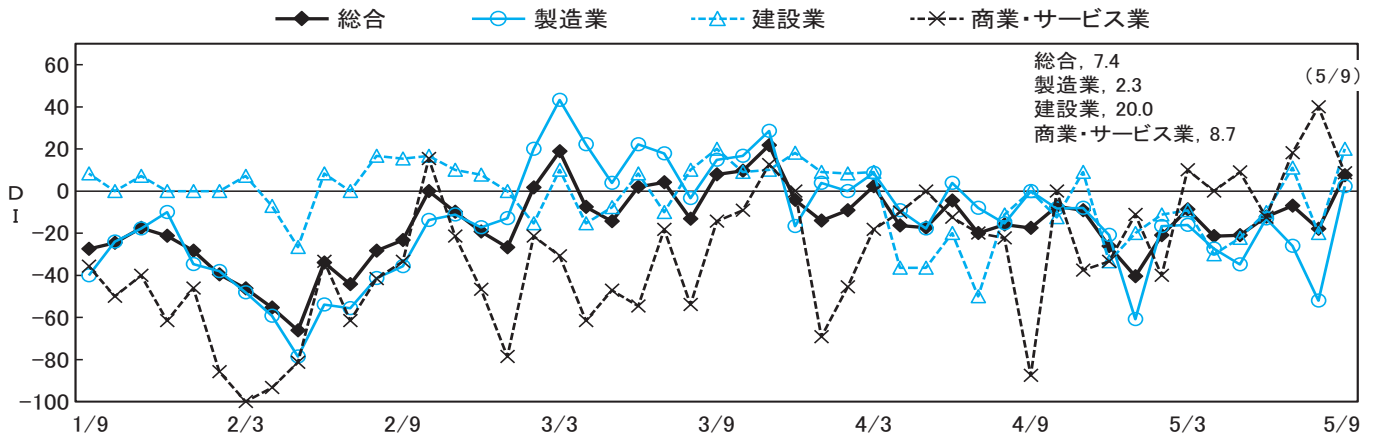


- SDGs を活用して新たなビジネスチャンスにつなげたい。
- 自社とSDGs の取り組みの関連性をイメージしたい。
- 現在の取り組みがどのようにSDGs につながっているかを整理したい。

詳しくは飯田信用金庫本支店または
地域サポート部 53-5811 へ

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上)	県内	7件	(前月 10件)	(前年同月 4件)	(前々年同月 4件)	(令和元年同月 7件)
	飯伊	1件	(前月 1件)	(前年同月 0件)	(前々年同月 1件)	(令和元年同月 3件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (8月)		53戸	△ 10.2 %	△ 8.6 %	15.2 %	8.2 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (8月)		1.56倍	(前月 1.58倍)	(前年同月 1.68倍)	(前々年同月 1.41倍)	(令和元年同月 1.47倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,388台	29.8 %	14.7 %	37.5 %	△ 28.5 %
	中古車	662台	△ 2.9 %	4.3 %	△ 8.6 %	△ 17.7 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (8月)	新車	3,365台	△ 1.3 %	13.5 %	16.2 %	△ 7.5 %
	中古車	901台	△ 9.6 %	△ 2.1 %	3.2 %	12.5 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	97,893台	△ 6.2 %	4.5 %	22.4 %	△ 16.4 %
	出	103,495台	△ 2.4 %	6.5 %	29.1 %	△ 12.5 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	64,006台	△ 2.4 %	6.0 %	20.1 %	△ 23.3 %
	出	61,929台	0.1 %	6.7 %	16.6 %	△ 22.9 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	16,276台	△ 7.3 %	△ 13.7 %	31.7 %	1.0 %
	出	13,407台	△ 19.8 %	△ 6.3 %	14.0 %	△ 14.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	47,531台	△ 10.9 %	4.4 %	31.0 %	8.1 %
	出	50,938台	△ 6.7 %	4.1 %	41.5 %	13.0 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	39,917台	△ 3.2 %	14.1 %	- %	- %
	出	38,824台	0.1 %	13.8 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		168件	42.4 %	10.5 %	20.0 %	△ 5.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		14件	(前月 0件)	(前年同月 4件)	(前々年同月 2件)	(令和元年同月 6件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	20,383人	△ 28.0 %	39.1 %	227.2 %	△ 26.8 %
	飯田～名古屋	13,654人	△ 18.0 %	37.8 %	176.6 %	△ 27.5 %
	飯田～長野	3,957人	△ 0.1 %	19.7 %	38.7 %	△ 54.4 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,445人	△ 20.4 %	57.0 %	311.2 %	△ 23.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,756人	2.3 %	12.2 %	1.7 %	△ 25.3 %
	右回り	2,774人	△ 3.6 %	5.2 %	1.4 %	△ 22.9 %

「第54回 しんきん経済講演会」のご案内

令和5年11月7日に、恒例のしんきん経済講演会を開催します。
今回の講師は、第一生命経済研究所首席エコノミスト 熊野英生先生。
皆様のご聴講をお待ちしております。



日本経済の今後について
現場目線でわかりやすく解説

第54回
しんきん経済講演会

聴講無料

演題
日本経済の展望

講師
第一生命経済研究所
首席エコノミスト **熊野 英生氏**

日時
令和5年 **11/7**火
13:30~15:00

会場
シルクホテル
(飯田市錦町1-10) 会場受付13:00~

お申込み締切
令和5年
11月6日(月)

聴講方法は
2通り!

① **ライブ配信にてオンライン聴講**
② **会場にて聴講** [定員:120名(先着順)]

※いずれも事前申込が必要となります。お電話もしくは飯田信用金庫ホームページ上の専用フォームからお申し込み下さい。

飯田しんきんのイベント情報

主催  **IIDA SHINKIN BANK** 【電話でのお申込みはこちら】
飯田信用金庫 飯田信用金庫 地域サポート部 ☎0265-53-5811

協賛 しんきん各店親睦団体・しんきん若手経営者の会(SYMS)・SYMS同友会・飯田しんきんビジネスクラブ 

ご聴講方法は、【シルクホテル会場聴講（定員120名）】と、
【Zoom ウェビナーでのオンライン聴講】の二通り。
いずれも、飯田信用金庫ホームページの専用フォームもしくは
お電話でお申し込み下さい（お申込み締切：令和5年11月6日）

URL <https://www.iidashinkin.co.jp/region/events/shinkin/>

お電話でのお申込みも
受け付けております。

TEL 0265-53-5811

飯田信用金庫
地域サポート部

その他のお問い合わせも、飯田信用金庫地域サポート部へお願いします。